

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	第二暁
活動日時	2024.10.22(火)10:00
活動参加人数	8
クラス名（年齢）	ちゅうりっぷ（2歳児）
年間テーマ	自然

1. 活動のテーマ

<テーマ>

どんぐりを拾いに行こう

<テーマの設定理由>

気温が下がってきて散歩にも行きやすい気候になった。どんぐり拾いを行うことで、秋の自然に注目できるようにした。

2. 活動スケジュール

どんぐりがたくさん落ちている林に出かけて、どんぐり拾いをしながら秋の自然を感じる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ペットボトルで作ったどんぐり入れ・ビニール袋
どんぐりがたくさん落ちている林を散歩先に選ぶ。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ドングリがたくさん落ちている林を散歩先を選び、出かける。林につくとドングリを見つけることが出来、ペットボトルで作ったドングリ入れに拾い集めていく。

<活動中の子供の姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ・公園に行く前に、子ども達にペットボトルで作ったドングリ入れを見せると、とても喜び気持ちが高まっていた。
- ・ドングリがたくさん落ちている林に入ると、足元に落ちているドングリに気付き、早く拾いたくてうずうずしている様子だった。
- ・様々な種類のドングリが落ちており、場所によって落ちているドングリが違うことに気付いて、「おーい！！」「こっちきて！」「みて！」と子ども同士で声を掛け合って知らせていた。
- ・クヌギのドングリは大きくてペットボトルの口に入らなかった。「はいらない」と困っていたが、持っていったビニール袋に入れて持ち帰ることにする。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

林の中で様々なドングリを見つけることができ、子ども自身が「あった！」と発見できたことを喜びながら夢中で拾い集める様子があった。ペットボトルにクヌギを入れることができなかったが、大きさの違いに気付くきっかけとなった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	第二暁
活動日時	2025.1.8（月） 10:00
活動参加人数	9
クラス名（年齢）	ちゅうりっぷ（2歳児）
年間テーマ	自然

1. 活動のテーマ

<テーマ>

冬の自然と触れ合おう

<テーマの設定理由>

気温が寒くなったことを子どもたちも戸外遊びを通して感じていた。特に朝夕の気温が低い中で、自然環境に注目して散歩に出かけた。

2. 活動スケジュール

冬の自然環境で、どんな発見があるかを子どもたちと注意して観察しながら散歩を楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

気温に合わせて衣服を調整する。

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

正月休みで長く休んでいた子ども揃い、全員揃っての久しぶりの散歩となった。河川敷の道を歩いて散歩に出かける。登園時に比べると陽も当たり暖かさを感じたが、日陰はまだ寒い。河川敷を走って進むことで身体が暖かくなるを感じた。以前別の公園で見つけた霜柱を探してみるが、河川敷では見つけることができなかった。

＜活動中の子供の姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

・霜柱を見つけた時にどんなところにあったかを保育者がたずねてみると、「こうえん」「さむかった」など思いついた言葉が聞かれる。木の下の日陰に合ったことを思い出して草の下などを見ているが、見つからなかった。

・河川敷の脇に水たまりが出来ており、その表面が凍っていることに気付く。今シーズン初めて氷が張っていることに気付き、強く関心を持つ。氷を手にとってその冷たさを感じた。持っていると割れてしまったり、大きな氷を手にとって喜んだりする様子もあった。水たまりは凍っているのに、川は凍っていないのはなぜだろう？と保育者が疑問を持つと、子どもたちも不思議そうに見比べていた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

冬は生き物や花などとの出会いが少なく、身体を動かして遊ぶことを中心に活動していたが、冬ならではの特別な自然環境に、子どもたちは強い関心を持っていた。氷の冷たさを感じつつ、手が凍えて嫌がる子はおらず、皆とても喜んでいて。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	第二暁愛児園
活動日時	2025.3.5（水） 9:45
活動参加人数	8
クラス名（年齢）	ちゅうりっぷ（2歳児）
年間テーマ	自然

1. 活動のテーマ

<テーマ>

雪を顕微鏡で見てみよう

<テーマの設定理由>

先日雪が降る様子に関心を持ち、見つめる様子があった。再度雪が降る予報があったため子どもたちの関心が深まるように設定した。

2. 活動スケジュール

雪に触れてその冷たさを感じ、顕微鏡や図鑑を用いて雪への関心を深める。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

顕微鏡・図鑑・たらい・タオル

前日の午後に降った雪を顕微鏡で見て、画像を保存する。

戸外に積もった雪をたらいに入れる。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

前日の午後から雪が降り、午睡明けに子どもたちは雪が降っていることに気付く。顕微鏡を使用して雪の結晶を見てみる。当日は雪が雨に変わったが、たらいに残っていた雪を入れて室内で触れてみる。その後図鑑や顕微鏡で雪の結晶について知る。

<活動中の子供の姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ・前日、午睡明けに雪が降る様子を見て強い関心を持っていた。顕微鏡を使用して雪の結晶を見てみた。
- ・たらいの雪に触れてみると、冷たさを感じるとともに、だんだんと溶けていく様子に気付く子もいた。
- ・図鑑で雪のページを保育者と開いてみると、雪の結晶の姿を知ることができた。
- ・顕微鏡で積もった雪を顕微鏡のモニターで見てみる。雪は氷に変わっており、粒状の姿しか映らなかったが、キラキラした粒の姿を喜んで見ていた。その後、前日見た、降りたての雪の結晶を録画したものを再度見ると、雪の結晶のとがった様子などが確認できる。図鑑の姿とも子どもたちの中で一致し、「エルサ（のマーク）みたい！！」と多くの子どもたちが夢中になり関心を寄せていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

雪で遊ぶことを楽しみにしていたのに、それほど積もらずに残念そうな子どもたちだったが、残った雪に触れたり、それを、顕微鏡を用いて見てみたりすることで、新たな楽しさや興味を生むことができた。前日に雪の結晶を顕微鏡で見た際は、きれいだと感じつつ子どもたちの中でピンと来ていない様子もあったが、図鑑の姿と一致したことで関心が深まった様子があった。